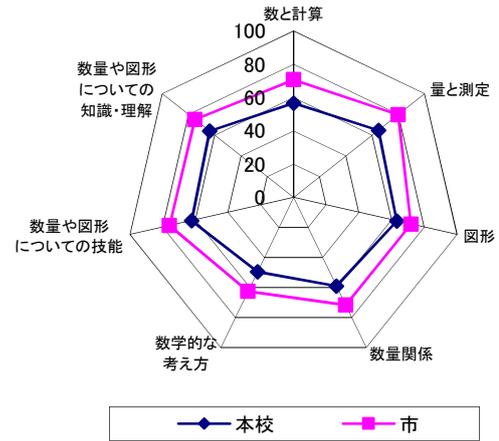


# 宇都宮市立宝木小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	56.7	70.8	65.9
	量と測定	64.8	79.9	77.0
	図形	63.2	71.8	74.6
	数量関係	59.0	71.7	73.4
観点別	数学的な考え方	49.5	62.5	59.4
	数量や図形についての技能	62.3	75.8	73.3
	数量や図形についての知識・理解	64.0	75.1	76.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、他の領域と比べて低い。</p> <p>○約分のない分数×整数の計算問題について、正答率が市の平均より10.4ポイント低いが、8割を超えている。</p> <p>●問題の場面を理解し、求めた答えが示された条件と矛盾することを説明する問題の正答率は32.4%と、市の平均より21.9ポイント低い。無回答は34.3%と高い。</p>	<p>・考えを文章にすることが苦手な児童が多い。日々の授業の中でも自分の考えを文章で書く場を設けたり、説明する文章を作成できるよう穴埋め形式で文章を作る経験を積ませていきたい。また、間違えている理由が分からない児童も多いことから正しく計算するだけでなく、間違え方にも目を向けてその理由が分かるよう間違えた解答について話し合う学習形態を取り入れていきたい。</p>
量と測定	<p>平均正答率は、他の領域と比べて低い。</p> <p>○図から面積と人数の割合を求め、最も混んでいるシートを選ぶ問題について、正答率が他の問題と比べてやや高い。</p> <p>●値に0があり、答えが小数になる連続量の平均を求める問題の正答率は60%と、市の平均と比べて21.8ポイント低い。</p>	<p>・平均を正しく計算することに課題がある。平均の計算方法が理解できていない児童やたし算やわり算が正確にできない児童など間違え方は様々である。間違えの多い形を示し、計算する時にどんなことに気を付けるべきなのかを指導していく。また、計算間違いが多い問題は繰り返し練習を定期的に取り組めるよう工夫していく。</p>
図形	<p>平均正答率は、他の領域と比べて高い。</p> <p>○合同な三角形を作図する問題について、正答率が市の平均より1.9ポイント低いが、8割を超えている。</p> <p>●2つの角が与えられた三角形の1つの外角を求める問題の正答率は50.5%と、市の平均と比べて18.8ポイント低い。</p>	<p>・三角形の内角の和が180度であるなど図形の性質の理解が不十分である。作図の方法に偏ることなく、それぞれの図形がどのような性質をもっているのか、性質の違いを比べながら意識できるように指導していく。</p>
数量関係	<p>平均正答率は、他の領域とほぼ同じである。</p> <p>○比例の関係をXとYを使って式に表す問題について、正答率が市の平均より8.3ポイント低いが、8割を超えている。</p> <p>●反比例についての表を読み取り、表にあてはまる数を求める問題の正答率は55.2%と、市の平均と比べて21ポイント低い。無回答は、14.3%と高い。</p>	<p>・反比例の性質は理解しているが、基準となる数字が分からなかったり、答えが小数になったりすると間違えてしまう児童が多い。無回答も多く諦めてしまう児童も多いことから基本的な問題を繰り返し解くことで自信を育み、その上でつまづきが見られやすい問題を示すことで、応用問題の経験を積んでいけるよう指導していく。</p>